

研究所だより

第375号
2017年 6月 8日
発行：土佐清水市教育研究所
TEL 82-3015



“あめあめ ふれふれ かあさんが
じゃのめで おむかい うれしいな
ピッチピッチ チャップチャップ ランランラン”
「あめふり」 日本の童謡（1925年）



～梅雨入り～

暦の上では、芒(のぎ)のある麦や稲など穂の出る穀物の種をまく時期と言われる「芒種」(5日)が過ぎ、7日には四国地方が梅雨入りしたとみられると発表されました。庭先の色づき始めたアジサイや水田の苗が久しぶりの雨を受け揺れていました。各学校では、プール開きも終わり水泳の授業が始まっていることでしょう。これから暑くなってくると川や海へ行く機会が増えてきます。「自分の命は自分で守る」を合い言葉に水難事故防止に努めていただきたいと思います。

「指導と評価4月号」から

「指導と評価4月号」に清水中学校（岡崎 哲也校長）の取組が掲載されていますので紹介します。（参考文献「指導と評価4月号」）

清水中学校はガイダンスカウンセリングで劇的に変わった ～人間関係プログラムの力～

1. 校長としての決意「是が非でも立て直す」
教育の根底にあるべきものは「人間関係づくり」に基づく「人間力の育成」であると感じていたので、この力を育成していくための「人間関係プログラム」を実施することが「荒れ」を克服する唯一の手段であるという確信もあった。
2. 「人間関係プログラム」との出会い
成長のプロセスを「依存的なあり様から主体的なあり様へ」と規定し、「認知→行動→評価のスパイラル」を原理としている。プログラムの内容はこれまでのグループアプローチ（「ソーシャルスキルトレーニング」「構成的グループエンカウンター」「ストレスマネジメント」「アサーショントレーニング」「七つの習慣」等々）の成果を取り入れたワークショップ&ファシリテーション型の授業である。
個人は常に雰囲気などに左右されるもので、所属する集団の傾向によって個人のあり方も変わる。生徒を個人としてとらえつつ、集団の傾向を的確につかみ、「互いに認め合い、支え合える人間関係づくり」を仕組んでいくことで、よりよい集団へと成長させる。
3. 教師の研修と生徒対象のプログラムの実施
依存的なあり様が満ちている関係からは「不安」と「恐怖」しか生まれない。生徒達が荒れたことによって生じたそんな依存的な関係性に教員自身が気づくことにより、「安心」と「信頼」の関係性を教員から築いていくことに心血を注いだ。教員がモデルとなれば、いずれは生徒たちへと広がっていく。まず、教員が成長のプロセスを歩んでいくことを望んだのである。モデルを示すという姿を、私一人が校長として実行するのではなく、教員自ら、そして生徒へと拡げてい

くツールが「人間関係プログラム」であった。主体的なあり様をめざす授業＝「人間関係プログラム」は「ジョン万タイム」と名づけられ、スタートした。1年生プログラムのコミュニケーション基礎、ストレスマネジメント、アサーションロールプレイングを全学年で実施した。

- 第1回研修【テーマ】アサーションロールプレイング
- 第2回研修【テーマ】ストレスマネジメント
- 第3回研修【テーマ】公開授業・研究協議
- 第4回研修【テーマ】共感性と自己管理能力

4. 研究の検証と成果

- (1) 教員の意識改革と指導力向上につながり、生徒・保護者との信頼関係を構築できた
「人間関係プログラム」のファシリテーション研修を行うことで、教員の意識改革が進み主体性が育成され、生徒たちへの期待感が増幅し、そのことが信頼関係の回復につながってきた。
- (2) 学校が安心できる場となった
全教員で一致団結を合い言葉に推進した取組により学校は安心できる場となった。教員がアサーションを意識して日々の実践をしており、生徒に寄り添った適切な生徒支援と教育相談、規範意識の醸成と学力向上の取組が、現在の落ち着いた学校を創りだしている。

～ある校長のメモ～（高知県教育研究所春季連絡協議会講話より）

- 今やっていることを見直してみる。学校目標、年間行事計画、教科等の年間指導計画、そして、日々の授業や学級経営が個々ばらばらにあるのではなく、ちゃんとつながっていること。
- 職員の頑張りが、それぞれの頑張りでなく、ベクトルを揃えてつながってこそ力を発揮する。そういうデザインになっているか、そうなるように意識して作っているのか。
ということについて、職員全員で来年度の教育課程を考えていきたい。

＜外国語教育コア・エリア実践研究指定事業＞

本市は、平成29年度外国語教育コア・エリア実践研究指定事業の指定を受け、市内小中学校（管理職・英語担当者）が連携して取り組みを始めました。

1. 第1回外国語教育コア・エリア推進会議（5月11日・水）
 - (1) 役員選出 会長：矢野川 清 校長（幡陽小学校）
副会長：岡村 相良 校長（足摺岬小学校）
* 推進組織（全小中学校管理職・英語教育担当者・学校教育課・教育研究所 計22名）
 - (2) 各校における英語教育体制の充実に向けての取組について
 - (3) 外国語意識調査の分析と意識調査による推進プラン内の評価項目・到達目標について
* 講師：松本 桂 指導主事（西部教育事務所）



2. 第2回外国語教育コア・エリア推進会議と公開研究授業（5月31日・水）
清水中学校において、浦田 国宏先生による公開授業の参観と研究協議、推進プランについての協議が行われました。

（1）〔公開研究授業〕単元名： What Can We do for Others?
授業者： 浦田 国宏 教諭（T2：近森 勇太 教諭）

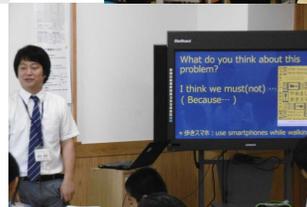
* 講師：松本 桂 指導主事（西部教育事務所）

（授業感想）

- ・ICTを効果的に活用することで、興味を持ち、テンポ良く取り組めていました。
- ・子どもたちは、1時間仲間と共に楽しそうに授業を受けていました。
- ・楽しい授業で生徒も前向きに取り組んでいました。基礎力が定着しきれていない課題があるのと、小学校での外国語活動との連携の必要性を感じました。



「2-1の公開授業」



（2）外国語教育コア・エリア推進プランについて

* 講師：松岡 佐記 指導主事（高知県教育委員会小中学校課）

推進プランは、年度当初各校で実施していただいた意識調査から年度当初の状況、到達目標を決め、到達目標達成のための取組として4つの取組項目、取組の評価指標、取組計画等を策定しています。そして、本市の研究テーマ（英語教育推進方針）「小中学校が連携して取り組み、英語を使って積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童生徒の育成」を達成するために小小・小中連携して取り組んでいくことが重要になってきます。



↑「授業についての班別・全体協議」



←「松本指導主事による講話」

ゴールのコミュニケーションを見据えた授業づくり

○コア・エリア事業の目指すところ

- ・小・中学校において、学校体制としてこれからの英語教育を見据えた組織体制が確立しているか
- ・小学校において現行学習指導要領の外国語活動の趣旨に添った授業ができていくか。

・小・中学校において、英語教育に関わった小中連携ができていくか



『児童生徒の英語によるコミュニケーション能力の育成』

○1単元で授業をつくる

- ・（小・中）単元ゴールでは、子どもたちのどのような姿を目指しているのか。どのような表現を使ってコミュニケーションさせるのか。
- ・（小）単元ごとに3つの柱での目標を設定しているか（評価規準も3つ）
- ・（小）3つの柱に沿って、単元を構成しているか
- ・（中）「何ができるようになるのか」の目標を設定し、目標達成のための単元構成になっているか

○授業づくり・授業改善

- ・英語を使ってやりとりする（教師ー子ども、子どもー子ども）
- ・コミュニケーション活動を工夫する
- ・自分の気持ちや考えを伝え合わせる
- ・1単元で授業をつくる

* 授業イメージの共有（授業DVD視聴）

「英語教育推進リーダー中央研修DVD教材」（H28年度配布）

第3回外国語教育コア・エリア推進会議は8月28日（月）に長崎 政浩 教授（高知工科大学）を講師にお迎えし開催します。

<購入書籍・DVD等の紹介> ~ご利用をお待ちしています~

★書籍

- ・新教育課程ライブラリⅡVol.4
「三つの資質・能力から考えるこれからの学校経営」
- ・新教育課程ライブラリⅡVol.5
「総則から読み取る学びの潮流」

★DVD（平和・人権教育教材）

〔平和教材〕

- ・「さとうきび畑」（11分） ~森山良子の唄にのせて~
こころにざわわ…聴こえますか。今、あらためて、平和への祈りを…忘れないでください。多くの人々の祈りを平和への実りにするために。
- ・「地球の風ぐるま ヒロシマ・ナガサキに学ぶ」（32分）
今、私たちに何ができるのか、核兵器のない世界は実現するのか。子どもの目線で捉えた被爆の実相を語る作品。
- ・「予言」（42分）
核兵器開発のフィルムと広島・長崎の被爆直後の映像を対比させ、ヒバクシャの目から「核時代」を警告する本格ドキュメンタリー。
- ・「戦争ー子どもたちの遺言」（53分）
記録フィルムとアニメーションで語る歴史の証言。中国侵略、ゲルニカ爆撃、東京大空襲。戦争がもたらす破壊と死を、子どもたちは告発する。
- ・「増大する放射能」（22分）
建築物や乗り物などは破壊せず、生物のみを殺傷する中性子爆弾とは？この恐るべき兵器の実態をリアルに描きだす。